

# 保育施設における乳幼児の精神面に寄り添うセルフケア空間の構成と 主体的活動との関係

(中間報告)

東京理科大学 早川 亜希

Composition of self-care space to attend to the mental aspects of infants  
and toddlers in daycare facilities and its relationship to their proactive  
activities

Tokyo University of Science, HAYAKAWA, Aki

## 要約

本研究は、乳幼児が集団の中で自らの居場所をいかに獲得していくかについて論じる研究である。近年、保育施設では、保育時間の長時間化への課題や子ども一人ひとりの特性に対応した保育が求められている。建築計画の分野においても、子どもの心身の安定と居心地の良い物理的環境の整備といった、環境の質に寄与する知見が求められている。そこで、本研究では子どもが気持ちを切り替える行為や集団から離れて一人で静かに過ごし落ち着く行為を「セルフケア」と定義し、保育施設において、それが潜在的に行なわれている場所「セルフケア空間」を見出す。その上で、スペースの使われ方の実態と、空間構成の特徴を分析し、セルフケアが子どもの主体的な活動に果たす効果を検証することを目的とする。これまでに、6施設のヒアリング調査及び空間の実測を行ない、分析を進めている。

**【キーワード】 保育施設, セルフケア, 空間, 主体的活動**

## Abstract

This study discusses how infants and toddlers acquire their own place in a group. In recent years, childcare facilities have been required to address the issue of longer hours and to respond to the characteristics of each individual child. In the field of architectural planning, there is also a need for knowledge that contributes to the quality of the environment, such as the development of a physical environment that is comfortable and stable for the child's mind and body. In this study, we define "self-care" as the act of children changing their minds and spending quiet time alone away from the group to calm down and find "self-care spaces" in childcare facilities where this is potentially done. The purpose of this study is to analyze the actual usage of the space and the characteristics of the space composition, and to verify the effect of self-care on children's independent activities. So far, we have

conducted interviews and measured the space of six facilities, and are now analyzing the results.

**【Keywords】 daycare facilities, self-care, space, proactive activities**

## 問題と目的

本研究は、乳幼児が集団の中で自らの「居場所」をいかに獲得していくか、という視点で行なう研究である。特に、乳幼児が個人と集団との関係に折り合いをつけながら、基本的な生活習慣や社会性を獲得していく保育施設において、子どもが集団から一時的に避難したり、内省等により気持ちを切り替えることを支援する物理的空間の整備が、子どもの心身の安定と居心地の良い場作りには必要であると考えている。

現在、社会的な需要の高まりに応じて、保育施設（保育所、幼稚園および認定こども園、小規模保育、事業内保育等）の整備が進む一方で、保育の質に関する議論が活発である。共働き世帯の増加に伴い、子どもの保育施設での滞在時間は長時間化しているため、子どもの生活空間としての質の担保は重要課題である。他方、近年では、教育学や保育学分野でインクルーシブ教育や主体的活動が重視され、2018年には保育所保育指針（厚生労働省、2018）を始めとする各要領（文部科学省、2018及び内閣府ほか、2018）の改定により、子どもの主体性を尊重する方針が明文化された。つまり、より子ども一人ひとりの興味関心や発達の特性に合わせた保育が求められているといえよう。その潮流の中で、本研究では、保育施設の物理的環境が、子どもの主体的な活動をいかに支援しうるかについて、改めて問いたい。

これまで筆者は、保育施設（保育所及び幼稚園、認定こども園を含む）において、図書コーナーやアルコーブ等の小規模な諸室または廊下の一部が、保育室内の活動の切り替え時の待機場所や、送迎時の親子の交流場所として使われたり、子ども同士の親密な人間関係の形成や、子どもの気持ちの切り替え場所として使われている実態を整理し、建築計画の視点から、その空間要件を整理してきた。しかし、同時にそうした小スペースの役割を保育者が潜在的に認識していても、物理的に整備されている事例は少なかったり、スペースがあっても保育者にとって使いにくいことから、保育の場所として活用されていない事例も散見された（早川ら、2022）。

そこで本研究では、子どもが自らの気持ちを整理し切り替える行為や、一人で静かに過ごすことで落ち着きを取り戻す行為を「セルフケア」と定義し、保育施設において、それが潜在的に行なわれている場所「セルフケア空間」を見出す。その上で、その実態を捉え、空間構成の特徴と、セルフケアが子どもの主体的な活動に果たす効果を検証することを目的とする。

## 方法

研究の方法は、アルコーブや「ほこら」といった小スペースを整備した保育施設の中から、子どものセルフケアと場所の使い方の実態を調査し、①セルフケア空間の設えや面積、空間的特徴などの

構成要素を整理する。さらに、②環境設定者である保育者に対し、セルフケアに対する認知や意識、保育実践者の立場からの評価を分析する。その上で、③セルフケア空間を再定義し、④セルフケアが子どもの主体的な活動に果たす効果を考察する。

調査対象の施設選定には、東京都葛飾区で長年保育施設の設計を手掛けるS設計事務所の協力を得た。S設計事務所では、「ほこら」と称する小スペースを園舎内に積極的に整備し、またその小スペースを単なる遊び場所として捉えるのではなく「長時間保育を支えるプラスαの居場所（佐藤，2022）」と捉え、子どもの精神的な拠り所として認識し設計している。S設計事務所が設計した事例より、ホームページなどの公開情報から「ほこら」などの小スペースが確認できた事例に対し、ヒアリング調査の依頼を行ない、許可が得られた事例に対する調査を行なう。

## 現在の進捗状況

これまでに、6施設に対してヒアリング調査及び実測を行なった。6施設の概要を表1に示す。現在、ヒアリング調査で得られた小スペースの使い方やエピソード、保育者の立場から考える小スペースの評価を整理、分析を進めている。また、小スペースの使い方の実態を捉えるために、今後、一部の施設について観察調査を実施予定である。

表1 調査対象施設の概要

No.	施設名	運営法人	所在地	竣工年 (年)	定員 (人)	敷地面積	建築面積	延床面積	園舎の構造種別 及び階数	小スペースの種類、場所
						(㎡)				
1	M保育所	社会福祉	東京都中野区	2009	110	1859	-	864.98	地上2階建	保育室の一角（一時保育室×1）
2	B保育所	社会福祉	東京都世田谷区	2010	110	1087.48	-	752.71	鉄筋コンクリート造 地上2階建	保育室の一角（異年齢保育室×2）、ホールの一部
3	T保育所	社会福祉	東京都北区	2011	74	-	286.79	518.3	鉄骨造 地上2階建	保育室の一角（異年齢保育室×1）
4	P保育所	社会福祉	東京都江戸川区	2011	72	271.47	407.12	-	鉄骨造 地上2階建	保育室の一角（異年齢保育室×1）
5	S保育所	社会福祉	東京都多摩市	2013	132	1456.93	-	-	鉄骨造 地上2階建	保育室の一角（異年齢保育室×3）
6	K保育所	社会福祉	東京都世田谷区	2017	90	-	-	-	鉄骨造 地上2階建	階段下スペース

※不明（-）箇所については、今後追記予定

## 引用文献

厚生労働省、「保育所保育指針」, [https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1) (2024.1.10 最終アクセス)

厚生労働省, 2018, 「保育所保育指針 解説」

文部科学省, 「幼稚園教育要領」, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm) (2024.1.10 最終アクセス)

文部科学省, 2018, 「幼稚園教育要領 解説」

内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2018, 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」, [https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00010420](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420) (2024.1.10 最終アクセス)

内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2018, 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 解説」

早川亜希・小松尚, 2022, 「保育室に付帯した遊びスペースの空間特性と使われ方, 保育者の見守りやすさの相互関係」日本建築学会計画系論文集, 第 87 巻, 第 795 号, pp.831 ~ 841,

佐藤未来, 2022, 「保育を支える設計 - エピソードに学ぶ」建築とまちづくり, No.520, pp.20-23